

中一 国語科通信

第5号
平成30年11月12日
国語科1年担当
奥池・狭間



細き蔓にしがみつくとなりいたる
零余子を採りてポケットに入る

奥池 大和

百字の獅子

第一回からずいぶん間が開きましたが、「百字の獅子」の第二回を十月に実施しました。今回のテーマは「黒」「スポーツ」「月」の三つ。久しぶりだったせいもあり、なかなかの苦戦でしたが、上手な作品も多くありました。今回はそこから各クラス三作品ずつ紹介します。

〈スポーツ〉

「スポーツの秋」

一組 K君

秋と言えばスポーツである。その理由は、秋には、国体やテニスの四大大会など競技ごとに大きな大会があるからだ。他の季節でも世界ランクは変わるが、秋の大会は世界ランクの入れ替わりが多く、観戦していて面白い。

◆「スポーツの秋」とよく言われますが、観戦する立場からの理由がしっかりと書かれていますね。

〈月〉

「満月」

一組 I君

私は、月を見るのが好きだ。なぜなら、満月を見ていると、うさぎの模様や月が光って見えるからだ。しかし、残念なことに私の家からは、月が見えないため、毎日学校から家に帰る車から外を見る時が、私は好きである。

◆I君の人柄とこの文章がとてもマッチしていて、微笑ましく読むことができました。

〈スポーツ〉

「放課後」

二組 Nさん

学校の帰り道、私は友達に呼び止められた。「一緒にテニスしない。」私は友達と日が暮れるまでテニスをした。一緒に笑い、汗を流して、とっても楽しかった。私の心に何か小さなものが芽生えたような気がした。

◆何かすがすがしい小説を読んでいるようでした。シンプルでいて読みごたえのある文章ですね。

速報!

日高先生の御長女誕生!
10月9日、27
06グラムの「七緒」ちゃんです。

〈月〉

「黄金」

二組 S君

月の第一印象は黄金である。月を眺めているとすごく良い気分になり、癒され、嫌な事も何もかも忘れられる気がする。僕はそんなすばらしい黄金の光をもった月を見て、これからは学校生活を頑張っていきたいと思う。

◆月がもつ不思議な力に日々助けられているのかもしれないということを改めて考えさせてくれる文章でした。

〈月〉

「十月の月」

一組 Tさん

私は、満月がとても好きだ。何一つ欠けていないきれいな円。私もあんな風な人間になりたい。何でも出来て角のように角角していないやさしい人に私はなりたい。私は、これからも満月のような人間を目指していきたい。

◆清書ではなく、二枚目の作品でしたが、これが気に入りました。「私はなりたい」ってところが、宮沢賢治みたいで良いですね。

〈月〉

「好きな色」

二組 Kさん

私はたくさんある色の中で黒が一番好きで、花を描く時に背景を黒にすることが多くある。黒は他の色に染められることはない。黒を使うと描いたものが明るく、綺麗でとても輝いて見える。そんな黒が私はとても好きだ。

◆黒という色は主張が強いとよく言われますが、他のものを際立たせる役割もあるという目の付けどころが秀逸だと思いました。

コラムマラソン 第五回

「季節の変わり目」

先日、体調を崩した際に、ある人のこんな言葉を思い出していました。「この時期は、いろんなものが瞬く間に変化しているって、季節というものを五感で感じられるから好きだ」

私は、「なるほど、そういう考え方もあるのか」と思いました。確かに、夏や冬は暑い日や寒い日々がずっと続きますよね。夏や冬には、あまり変化のないところに季節感をもちやすいのかもしれないですね。一方、春の桜の花が見せる瞬間の美しさや、秋の紅葉のグラデーションに心動かされるように、秋や春は変化の季節とも考えられるのでしよう。

さて、冬がもうすぐそこまで近づいてきました。ここで一つ、季節の変化に目を向けてみてはいかがでしょうか。「変化を楽しもう」と、心に余裕をもって日々を過ごしていきたいものですね。もちろん、体調が悪い方に変化するのはもう勘弁してもらいたいのですが……。